



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 6月号

令和5年5月31日

横浜市立青木小学校

「今日の全校遠足は 私にとって 本当に楽しい一日でした。」 (児童の言葉より)

校長 後明 好美

先週の土曜参観には多くの保護者の方々に来校をいただき、ありがとうございました。各御家庭2名までと人数の制限はさせていただきましたが、土曜参観もほぼコロナ前の状態で実施することができるようになりました。

中の記事にもありますが、5月はこれまで3年間実施することのできなかつた全校遠足も実施され、子どもたちの笑顔がいっぱいの一日となりました。

焦らず 青木らしく 自分らしく

学校での出発式は、全校が縦割りグループごとに校庭に並ぶという経験が3年間なかったので、時間がかかりました。その中、先生たちも焦らさず、子どもたちを促しながら整列をさせました。出発式は、集会委員会が澁漕と運営しました。コスチュームをつけたレンジャーが登場するなど工夫があり、全校が一気に盛り上がりました。レンジャー役の子たちの堂々とした様子も、際立っていました。

臨港パークでは、グループごとにだるまさんがころんだをしたり、鬼ごっこをしたり、異学年との活動を楽しみました。遊びと遊びの間の時間には、芝生の坂を体ごとゴロゴロ転がる子がいたり、一心不乱に花摘みをする子がいたり、個々の過ごし方も楽しんでいました。子どもたちののんびりと楽し気に過ごす姿を見て、改めてこの全校遠足が本校にとって必要な活動だと確認できました。

自ら判断し 行動する素晴らしさ

臨港パークまでの往復は、距離があるために心配していましたが、1年生も頑張って歩く姿が見られました。また、その1年生を支えるように、リュックのタグを後ろから持ち上げて荷物を軽くしてあげている上級生や、右写真のように自分が持っているファイルで日陰を作ってあげながら共に歩く上級生の姿がみられました。「歩くのが大変そうだったので、列の一番後ろに一緒に行って、1年生のペースで歩けるようにしました。」と話す6年生もいました。

ゲームや活動以外の場面でも、自分で考えて下級生を支え、励ます上級生の姿が青木らしさだと思いましたし、そんな思いやりあふれる行動ができる子どもたちの様子に、見ていて心があたたくくなりました。

タイトルは、解散式で代表児童が語ったことばです。思いのこもったその話しぶりと言葉が印象的でした。青木小には、素敵な子どもたちがたくさんいるということを再確認できた一日でした。

6月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



1年生が日陰で歩けるよう
ファイルをかさしながら共に歩く6年生